

## インターバンクの声（2017年5月22日）

先週末の為替市場は、円相場が東京市場の早朝からニューヨーク市場の終盤まで終日にわたって111円05銭前後から111円70銭手前までの静かな相場展開が続いた一方、東京市場の午後以降、ユーロがニューヨーク市場終盤までに100ポイント超の上昇を見せた。

軟化傾向が続いていた欧州株が金融株を中心とした反発で押し上げられ、経済や政治環境の持ち直しに南欧国の国債が買われ、安心感が広がるなど、リスクオン相場がユーロを支えたようだ。

ニューヨーク市場後半に上昇した1.12ドル台は、実に昨年11月上旬以来の水準だ。トランプ政権の大統領選期間中の「ロシアゲート」疑惑をめぐる政治的混乱への懸念によるドル安見通しの影響が、一番強くユーロに表れているような気もする。

こうした展開になると現れ始める安全資産とされる円買いの動きだが、今のところ111円や110円ちょうどの節目では円買い継続を思い留まっているような状態だ。

ただ、「ロシアゲート」問題とともに、最近の米経済指標に弱い内容が目立ち始めており、材料に乏しいとされる今週だが米経済指標には注意が必要だ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。